

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p data-bbox="172 315 1114 405"><b>1. 鶴ヶ島市が「生きごちのいい町」、日本一自殺率の少ない町になるために</b>（30分）</p> <p data-bbox="172 472 791 506">市議会議員として私の最初の一般質問です。</p> <p data-bbox="172 573 1121 663">私は「生きごちのいい町へ」をスローガンに選挙戦を戦い、市民の方から選んで頂きました。</p> <p data-bbox="172 685 1121 976">「生きごちのいい町」という言葉は、岡檀さんの著書のタイトル、「生きごちの良い町へ」から拝借しています。全国で極めて自殺率の低い町である、徳島県旧海部町を調査した本です。また、「NPO法人自殺対策支援センターライフリンク」の清水康之さんもこの言葉を使われます。清水さんは自殺対策基本法の制定などに多大な貢献をされ、本市でも講演会にお招きしたと聞いております。</p> <p data-bbox="172 1043 1121 1234">自殺は個人の問題ではなく社会の問題である、これは今や、社会的共通認識となっています。自殺はそれ自体が極めて不幸な事象であることは言うまでもありませんが、さまざまな生きづらさが重なり合っている状況の現われでもあります。</p> <p data-bbox="172 1301 1121 1391">「生きごちの良い町へ」は、「鶴ヶ島市 いのち支える自殺対策計画」の「はじめに」にも齊藤市長がこのように引用されています。</p> <p data-bbox="172 1458 1121 1648">“この計画に基づき、本市における「生きる支援」に関するあらゆる取組を総動員して、「生きることの包括的支援」として進め、「誰も自殺に追い込まれることのない“生き心地のよい鶴ヶ島”」の実現をめざしてまいります。”</p> <p data-bbox="172 1715 1121 1973">「鶴ヶ島市 いのち支える自殺対策計画」は平成31年3月に策定されました。その1年後から始まったコロナ禍の影響もあり、自殺をめぐる社会状況は大きく変化しました。平成22年から減少しつづけた自殺者数が令和2年に増加へ転じました。特に、女性と若年層の自殺者数の増加は新たな対策の必要性を感じます。</p>	<p data-bbox="1150 315 1246 349">市長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>「いのち支える自殺対策計画」は今年度が評価・見直しのタイミングだと認識しています。鶴ヶ島市民の「生きごち」と命に関わる計画です。厳しい目で評価するとともに、現状に則した実効性のある計画への見直しが求められます。</p> <p>以下、質問します。</p> <p>(1) 本市の現状            (ア) 本市における過去5年の自殺者数の推移は            (イ) 全国および埼玉県平均との自殺率の比較は            (ウ) 本市の自殺者属性の傾向は</p> <p>(2) 計画の効果            (ア) 計画策定後にとった具体的な施策は            (イ) 計画の効果検証は</p> <p>(3) 本市の自殺対策の課題は</p> <p><b>2. 鶴ヶ島市のジェンダーギャップを解消するために            (15分)</b></p> <p>「令和2年度 男女共同参画に関する市民意識調査」によりますと、「女性も積極的に責任ある立場についての方がよい」と答えた方が59.8%でした。</p> <p>しかし、鶴ヶ島市議会議員の女性比率は22.2%から16.7%に後退しました。</p> <p>また、「第6次 つるがしま男女共同参画推進プラン」をみますと、令和3年の市職員の課長級以上に占める女性の割合は、目標値15%に対し13.3%です。</p> <p>本市のジェンダーギャップはあるべき姿に遠く及ばない状況です。これでは、市民の声を実感をもって伺い、市政に反映することは難しいでしょう。</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>また、言うまでもありませんが、ジェンダーとは男性と女性に限った話ではありません。</p> <p>鶴ヶ島市が誰にとっても生きごちのいい町になるために、議会も市政も変わらなければなりません。</p> <p>以下、質問します。</p> <p>(1) 令和5年度の市職員の課長級以上に占める女性の割合は                  (2) 目標値が50%ではなく15%である理由は                  (3) 市職員のジェンダーギャップ改善のために何に取り組んでいるか                  (4) より積極的な取り組みを行う予定は                  (5) LGBTQIA+職員の職場環境の改善および管理職への登用の予定は</p> <p><b>3. 鶴ヶ島市が真に安心できる町になるための情報発信について</b> (15分)</p> <p>新型コロナウイルス感染症は本年5月をもって、感染症法上の位置付けが2類相当から5類感染症へ変更になりました。この感染症は消滅したわけではなく油断はできませんが、市民の皆さまのご協力もあって日常がもどりつつあることは素直に喜びたいです。</p> <p>現在の鶴ヶ島市のスローガンは「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」です。</p> <p>しかし、2020年以降約3年間にわたり、市民のみなさまは不安な毎日を過ごして来られました。「しあわせ」とも「安心」ともほど遠い日々でした。</p> <p>市民に安心して生活していただくためには、安全だけでは足りません。災害や疫病禍に際しては、適切なメッセージを行政が市民へわかりやすく発信することが求められます。それもただ、情報を市のホームページやSNSで発信するだけでは、安心していただくことは</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>難しいでしょう。時には市長から市民へ向けてビデオメッセージを送るなど、顔の見える市政を積極的に行うことで、市民は安心を得られるのだとおもいます。</p> <p>「新型コロナウイルスに関する市長メッセージ」は昨年9月30日を最後に発信されていません。その後、第8波の影響で本市でも多くの市民が大変なご苦勞をなさいました。そんな状況でも市長からのメッセージがなかったことを、私はひとりの市民として残念に感じていました。</p> <p>非常時においては、体温を感じられる共感的リスクコミュニケーションが必要です。</p> <p>今後もいつ甚大な災害や疫病禍に見舞われるかもしれません。</p> <p>以下、質問します。</p> <p>(1) コロナ禍における市民への情報発信の内容と頻度は</p> <p>(2) 評価は</p> <p>(3) 課題は</p> <p>(4) 参考になる他自治体の発信は</p>	